



## 佐藤 潤

一般社団法人東北経済連合会 副会長

## コロナ禍の、その先を見据えて。

本年の1月、新年の松飾りを下ろした2日後の1月9日、新型コロナウイルスの検出が報道で知らされました。その後暫く、WHOは非常事態宣言を出すまでには至らず、ましてや私たちも……。

「春のうららの 隅田川」で始まる、小学唱歌第一号 滝廉太郎作曲の『花』。春まだ浅い頃、この美しい歌詞を思い出し、桜の開花を心待ちにする方も少なくないのではないのでしょうか。この詩のように日本には、季節のめぐりを楽しむ文化があります。佐藤家でも昔から、歳時記に沿った四季折々の行事を長きに渡り大切にしていきました。中でも正月の屠蘇風呂や端午の節句の菖蒲湯といった湯に関する行事は欠かしたことがありません。しかしながら本年は、菖蒲湯をすっかり失念してしまいました。太平洋戦争の戦時下でも、東日本大震災直後でさえも、端午の節句には欠かさず湯船に菖蒲を浮かべてきたというのに、です。無意識のうちに厄災に翻弄されていたことを、実感した出来事でした。

現在(5月中旬)のところ東北6県の新型コロナウイルス感染者数は、他の地域より少ない状況にあり、特に岩手県においては、なんと感染者数0を維持し続けています。これらの報に日々触れながら、東北が縄文人のDNAを受け継ぐ地であること、また岩手県が「平民宰相」と呼ばれ、藩閥政治から政党政治への移行にドラスティックに取り組み、スペイン風邪が日本を襲った時の首相であった原敬氏を輩出した地であることと無縁ではないのではないかと感じました。「白河以北一山百文」と揶揄されながらも、強くたくましく歩んできた東北の底力を見る思いがして、ふと誇らしささえ感じました。

新型コロナウイルスの影響は、東北経済連合会の活動にも及んでいます。地域産業活性化の取り組みの一つとして2016年から外航クルーズ船の誘致拡大を行ってきました。向田副会長はじめ事務局の皆様の懸命な努力により、本年1月には、欧州クルーズ船社へのポートセールスが行われました。順調な成果を生み出し始めた矢先の出来事でありご尽力くださった方々の心中は察するに余りあります。

現状から今後の東北観光を展望すると、インバウンドや東北域外のお客様については、早急な回復は難しいと言わざるを得ません。しかし幸いなことに、もともと東北には、域内観光が盛んなエリアという特質があります。これを契機に、域内のお客様に向けて、これまで見落としがちだったそれぞれの地域の魅力を見直し、さらに磨き上げる必要があるのではないのでしょうか。人々の移動の形態や宿泊の仕方など、政府が提唱する「新しい生活様式」を踏まえた、新しい観光産業の在り方を早急に追求することが大切だと考えています。

振り返れば、人類の歴史はウイルスとの戦いの歴史でもあります。人間はこれらの厄災を英知で乗り越えてきました。私たちが今直面している新型コロナウイルスについても、世界各国の状況を冷静に分析し、情報を共有することで収束させることができると信じています。ウイルスとの共存を含めたコロナ禍のその先を見据えて、冷静に、強くたくましく歩んでゆきたいものです。

(株式会社ホテル佐勘 取締役会長・さとう じゅん)